

## ケアプラン点検表<記載例>

【第2表 居宅サービス計画書（2）】 §1		<自己評価>		<他者評価>		
		記号	コメント	記号	コメント	
<b>&lt;生活全般の解決すべき課題（ニーズ）&gt;</b>						
⑮	利用者の自立を阻害する要因と解決すべき課題（ニーズ）について、その相互関係を含めて明らかにし、それを解決するための要点がどこにあるかを分析し、その波及する効果を予測して記載している。		⑮特殊寝台貸与が必要な理由の書き方がわかりにくい。⇒活用することで期待する効果を短期目標に書く。  ⑲参加の視点が不足している。⇒次回訪問時、面接にて明らかにして目標を再設定する。  ㉑課題Ⅱの短期目標が具体的でない。⇒まず課題の整理から行う。  ㉒サービス事業者からの発言がうまく反映できていない。⇒次回から担当者会議の場でプランに盛り込むかどうか協議して必要なことを記載する。			
⑯	優先度の高いものから順に記載している。					
⑰	利用者・家族にもわかりやすい表現を用いて、取り組みの意欲が生まれるように記載している。					
⑰	福祉用具貸与や特定福祉用具販売のサービスに対する必要性がわかるように記載している。					
<b>&lt;長期目標&gt;</b>						
⑰	課題ごとに、支援を受けながら利用者が達成可能な目標設定となっている。					
⑳	誤った目標設定（支援者側の目標設定やサービス内容）になっていない。					
<b>&lt;短期目標&gt;</b>						
㉑	生活の場面（場所）、活動の内容、量（頻度）が具体的に明記され、モニタリングで達成状況が把握できる記載になっている。					
<b>&lt;目標の期間の設定&gt;</b>						
㉒	要介護認定の有効期間も考慮し、目標達成の時期の目安として開始時期と終了時期を記載している。					
<b>&lt;援助内容・サービス内容&gt;</b>						
㉓	短期目標の達成に必要であって最適なサービスの内容とその方針を明らかにし、適切・簡潔に記載している。					
㉔	家族を含むインフォーマルな支援やセルフケアも位置付けている。					
㉕	主治医意見書等で介護サービスにおける医学的観点からの留意事項が記入されている場合、留意点を尊重した内容になっている。					
㉖	サービス担当者会議で専門的な視点から示された留意点についても、わかりやすく記載している。					



## <自己評価>欄の記載例

### 【第1表 居宅サービス計画書（1）】

- ⑨ 本人は自ら意向を表現できないが、次回面接で家族等から情報を得て、本人の思いを代弁するように具体的に記載する。
- ⑨ 本人の望む生活がうまく引き出せていない。次回面接時、本人・夫から思いを引き出すことを心掛ける。
- ⑨ 望む暮らしが的確に表現できていない。課題等も考慮したうえで、必要なことを表現できるように再考する。
- ⑨ 意向が漠然としている。しっかり本人・長男から意向を引き出し、具体的に追加する。
- ⑪ 同居の妻以外の意向が聞き取れていない。退所に向けた話し合いの前に長女と面接の機会を設定し、意向を聴取して記載する。
- ⑫ 今後は、サービス担当者会議で「介護度」「審査会意見等」「認定期間」の確認を行い、本人・家族・担当者と共有する。
- ⑬ 総合的な援助の方針が現状の課題や意向と合致していなかった。現状に合わせ、方針を修正する。

### 【第2表 居宅サービス計画書（2）】

- ⑮ ポジティブな表現を使用して、本人や夫が主体的に取り組めるように、もう一度分析を行い波及する効果を予測してみる。
- ⑰ 課題が違うのに、長期目標が同じような内容になっている。課題の見直しをもう一度行って、参加の視点を意識して書いてみる。
- ⑲ 施設から自宅退所後、数日で別の施設への入所が決まっている場合の目標の期間設定をどうすればよいか悩んだ。
- ㉑ 課題整理総括表の「見通し」で記載した内容に漏れがあった。今後は漏れないように見直していく。
- ㉒ 具体的に書いたつもりが、内容がわかりにくい。「何を、どの程度どのように支援するのか」誰が見ても同じことができるように修正する。
- ㉒ 一般的な内容であり根拠が不明確なものも記載していた。課題整理総括表で要因分析をしっかりと行い、サービス内容を検討する。
- ㉔ 本人が行うセルフケアの内容が不十分。課題・目標に合わせ、本人が行っていることを追加する。
- ㉕ 医療的観点からの記載が不足している。主治医からの意見聴取の際に意識的に行うようにする。
- ㉖ 家族以外のインフォーマルサポートの記載がない。次回アセスメントで地域とのかかわりに重点を置き情報収集し、必要なことを書き込む。
- ㉙ 一旦施設入所すると退所時に必ず入所前のサービス事業所が利用できるとは限らないため、通所リハビリの事業所について複数情報提供できるように準備しておく。
- ㉙ どうしても説明時主観が入ってしまいがちである。「公平な立場」を意識して情報提供する。

### 【第3表 週間サービス計画表】

- ㉚ 週単位の部分が、介護保険中心であり、医療的なことの記載が不足している。介護保険以外も週単位・週単位以外にきちんと追加する。
- ㉚ サービスの種別の記載になっており、利用者の生活がわかりにくい。週単位と主な日常生活上の活動の欄を使って記載していく。
- ㉚ 夜間の家族の関わりや本人自身が行っていることについて記載が不足していた。再度アセスメントで聞き取り追加する。